

びしかど、亭主の申せしごとくにぞなりける、これ此事の本意なるべき評判ありしとぞ、
 【雲萍雜志】^三ある人茶は諂ひありといふことを、利休に問ひし時、こたへけるは、わが友にノ貫といふものあり、われを茶に招きしとき、時刻を違たる文をこしたり、刻限をたがへずして行きけるに、内なる潜り戸の前に穴を穿り、上に簀のこを敷てあらたに土を置たり、われは心なくそのうへにのりて入らんとする折から、地の土くえて穴に落たり、穴の底に土のねりたるが中へふみ込たれば、とりあへず湯あみして再び入りけるを人々の興としたり、此事かねて期明といふ者、山科へおはさばかくとはやく我にものがたれと、主のこゝろづかひを、われかねて知りたりとて、穴に落ざらんは志しをむなくすることのほいなさに、穴とまりつゝ、落入りぬ、扱こそその日の興とはなりたり、茶はひたすらにへつらふともあらねど、賓主ともに應せざれば、茶の道にあらずといはれし、

【槐記】享保十一年霜月十二日、參候、情主客ノ様子ヲ見ルニ、互ニ上手下手ハアルベシ、主ヨリモ客ニハナラルマジキモノト存ジ奉ル、主ハ心一ハイニテ獨リ藝也、客ハナスコトモナクテ、三人トモニ引張合子バ、不出來ノマキゾヘニ合コトモアリト申上シニ、後西院ノ勅ニ、御上々ニハ、上客ナラデハナサレヌコト也、下坐ノ者ノ迷惑セヌヤウニノ心得第一タルベシトノ仰也。^{○近衛上家照}
 客ニヨリテ下坐ノ難儀多シト仰ラル、此ニヨリテ見奉ルニ、イツモ御前ニ湯ヲ召上ラル、ニ、下坐ノ人飲テ後、再ビ御請ナサレテ召上ラル、毎々如此、下坐ノ人ノ致シヨキコト也、十六日、參候、今日初テ宗佐ヲ召シテ末座ヲ勤ラル、御茶碗ヲ返奉ルトキ、改メ申サントテ、懷中ヨリ奉書ニツツミタル紫袱紗ト、茶巾ノウチシメシタルヲ取出シテ、口付ノ處ヲフキテ上座ヘカヘシケルハ、最興アリケルトノ御事也、